

平成30年12月 定例会（第4回）会議録（抜粋）

○7番（渡辺厚子さん） 議場の皆様、こんにちは。公明党の渡辺厚子でございます。

今回は、大綱1点、予防医療の拡充と健康づくりの推進について、質問をいたします。

私は、1年前の12月議会でも、命を守る予防力の強化を目指してというテーマで、健康に係る質問をさせていただきました。その冒頭で、神奈川県の未病を治すかながわ宣言を紹介いたしました。それは、健康で長生きするためには、特定の病気になってから治療するのではなく、ふだんの生活において、心身の状態を整えて、より健康的な状態に近づける、これが未病を治すということだというものでした。今回の質問も、予防力の強化が健康寿命の延伸につながるものと考え、以下、中項目3点について、確認や提案をさせていただきます。

まず、中項目1点目は、任意予防接種の助成について。

任意の予防接種は、個人の希望により、自己負担で受けるものですが、その一部を自治体が補助することで、感染予防が図られているものがあります。その対象や補助額については、地域によって違いがあり、木更津市では、高齢者を対象とした肺炎球菌とインフルエンザについて、助成を行っています。そこで、今回の質問では、昨今の状況や今後の方向性が気になる、3つの予防接種についてお聞きします。

初めに、高齢者肺炎球菌予防接種について。

本市では、国が平成26年の定期接種化を実施する前の平成25年から、75歳以上の任意接種の助成を開始しました。そして平成26年からは、65歳以上5歳刻みの定期接種とあわせて、そのすき間となる年齢も対象に、助成を継続してきました。しかし、来年度から、国の方針で、定期接種は65歳のみになる予定と聞いております。この対象年齢の変更に関連し、本市の任意接種助成は影響を受けることになるのか、お聞かせください。

次に、インフルエンザ予防接種について。

現在、高齢者を対象に、自己負担1,000円で受けられるようになっていますが、本市では、それ以外の世代に対しての検討はされてきませんでした。過去の議会においても、子どもへの接種助成について議論されたことがあります。また、子どもを持つ保護者からは、助成要望の声が多く寄せられています。私は、せめて、受験を控えた中学3年生だけでも、希望する生徒が接種できるように、助成ができないものかと思ひまして、子どもへの助成拡大についての見解を伺います。

3点目は、風疹予防接種について。

風疹の感染は、2013年の大流行によって、先天性風疹症候群の発生が問題となり、今年も同様の感染拡大が懸念されています。今回の流行では、国の対策が遅れていたため、自治体独自で、抗体検査の無料実施や任意の予防接種に、一部助成をすることも散見されます。このような中で、ここ最近になって、国においても、国会審議等を経て、ようやく第2次補正予算で対策がとられるような動きになってきました。本市におきましては、8月から、市のホームページで注意を呼びかけてきましたが、今回の流行に対する認識と、任意接種の助成を含め、今後の対策についてどのように考えているのか、お聞かせください。

続きまして、中項目2点目は、検診の充実について。

本市が行っているさまざまな検診の中でも、今回は、口腔がん検診と、かねてから導入を訴えてきたピロリ菌検査、そして、昨年12月議会で提案した前立腺がん検診の3点について、お伺い

します。

初めに、口腔がん検診について。

本市では、平成28年度から、年に1回の口腔がん検診を実施しています。今年も、9月28日に、イオンモール2階のホールで行われましたが、これまでの受診状況と、その結果をどのように受けとめているのか、お尋ねします。

次に、ピロリ菌検査について。

これまでに、私は、胃がん対策としてのピロリ菌除菌を提案してきましたが、除菌の保険適用には内視鏡検査が必要なことから、本市では、従来のバリウム検査を変更する予定がないこととあわせて、ピロリ菌検査も検討されてこなかったものと認識しています。しかし、厚生労働省は、2016年2月、市区町村ががん検診を実施する際の指針となる、がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針の一部を改定し、胃内視鏡検査による胃がん検診は、胃がんの死亡率減少効果を示す、相応な証拠が認められたため、対策型検診として実施することが可能になりました。そして、胃がんを撲滅したいという医師を中心に、ピロリ菌除菌の動きは拡大しており、中学生に対して検査の補助を行う自治体も増えてきていることを踏まえまして、私は、改めて、本市でのピロリ菌検査の導入を期待するところでありますが、いかがお考えでしょうか。

次に、小項目3点目として、前立腺がん検診についてお聞きします。

昨年の12月議会で提案した、前立腺がん検診の導入についてのご答弁では、「君津中央病院泌尿器科に常勤の医師が確保できたことで、10年ぶりに地域の医療体制が整ったところでございます。この体制を維持できるのかを検証しつつ、医師会や専門医のご意見を伺いながら、導入について検討を進めたい」というお答えでしたので、その後の進展についてお聞かせください。

続きまして、中項目3点目は、健康づくりの推進について。

人生100年時代を迎えている今日、できるだけ健康な体で過ごせることが、望ましいことは言うまでもありません。赤ちゃんから高齢者まで、どの世代にとっても、健康は身近で大切なテーマです。そして、健康づくりといっても、ラジオ体操やウォーキング、水泳やヨガなどに取り組んでいる人もいれば、山登りや温泉に行く人もいられるでしょう。また、日頃の食事に気をつけながら、家族の健康を守っているという人もいらっしゃいます。そうした中で、今回の質問では、生涯スポーツに関連する取り組みと、市の健康づくりや憩いの場である施設、老人福祉センターについての提案をしたいと思えます。

初めに、ポッチャ等誰でも楽しめるスポーツの推進について。

本年3月に策定された木更津市スポーツ推進計画では、スポーツの定義について、「競技スポーツ、軽スポーツ、野外活動、レクリエーションの他、心身の健康のために目的意識を持って行う運動、身体活動をスポーツとする」と記されています。そして、生涯スポーツの推進、競技スポーツの推進、スポーツを活かしたまちづくり、施設の整備と活用という、4つの基本目標が定められています。また、生涯スポーツの推進の施策展開は、子ども、青年期・壮年期、高齢期等のライフステージごとの取り組みが示されています。私は、生涯スポーツの推進は、市民の誰もがスポーツに親しむことができる環境づくりを目指すものであり、市民の健康づくりに直結した目標だと感じております。そこで、ライフステージごとの取り組みとは別に、私は、世代の違いや障がいの有無を超えて楽しめるスポーツとして、パラスポーツの一つである、ポッチャのようなスポーツの普及を提

案したいと思うのですが、市としては、誰でも楽しめるスポーツの推進については、どのようにお考えでしょうか。

最後に、老人福祉センターの活用促進についてお聞きします。

高齢者の健康づくりの場としての老人福祉センターは、主にお風呂の利用が多く、さまざまなサークル活動とあわせて、入浴を楽しむ人が多いと聞いています。しかし、その一方で、場所柄、センターから離れた地域の市民からは、利用したことがないとの声も聞かれます。どの施設においても、ある程度は利用者の固定化が見られるとは思いますが、老人福祉センターには送迎バスもありますので、私は、もっと利用者の拡大が図れるのではないかと考えます。そこで、現在のセンターの施設利用状況やバスの運行状況を踏まえて、今後の利用促進をどのように考えているか、お聞かせください。

以上で1回目の質問を終わります。

○健康こども部長(鈴木賀津也君) 私からは、まず、大綱1、予防医療の拡充と健康づくりの推進についての中項目1、任意予防接種の助成について、お答えいたします。

初めに、高齢者肺炎球菌予防接種でございますが、平成26年度に定期接種が導入され、平成30年度までの5年間に、65歳以上の方を対象とし、5歳刻みの節目の年齢時に1人1回接種機会を設ける、経過措置を実施しております。定期接種導入時には、平成31年度以降は、対象者の接種状況等を踏まえ検討するとされ、現在、国の厚生科学審議会(予防接種・ワクチン分科会 予防接種基本方針部会)で、来年度以降、65歳に、肺炎球菌定期接種を継続する方針が示されたところでございます。そのほかの詳細な内容につきましては、現時点では不明のため、本市の任意接種制度は、国の方針が定まった後、判断してまいります。

続きまして、インフルエンザ予防接種でございますが、子どものインフルエンザ予防接種は、平成17年3月の厚生労働省の予防接種に関する検討会で、発病及び重症化を防止するための有効性は限定的であり、個人の判断で任意に接種を行うべきものと結論が出されており、2018年度版の予防接種ガイドラインにおきましても、任意接種として位置づけられております。予防接種制度において、市として公費負担により接種を勧奨していくためには、国の有効性・安全性の評価を経て、予防接種法に基づき、市町村が実施すべき定期接種に位置づけられるなど、国として推奨するものであることが、必要と考えているところでございます。

続きまして、風疹予防接種につきまして、お答えいたします。

国立感染症研究所の感染症発生動向調査により、感染の拡大が懸念されております。国は、緊急的な対策として、風疹に関する知識と抗体検査の周知、及び抗体価が低いことが判明した妊娠を希望する女性及び妊婦の同居家族が、優先的に予防接種が受けられるよう、先天性風疹症候群の発生を防ぐための取り組みを進めております。また、千葉県においては、無料で受けられる風疹抗体検査の対象を拡大するため、平成30年9月20日から、妊婦健診等で風疹抗体価が低いと確認された妊婦の配偶者、または妊娠を希望する女性の配偶者を追加しております。さらに、千葉県風疹ワクチン接種補助事業の実施に向けた、説明会が予定されております。今後、本市といたしましても、その内容に沿った対応をしてまいりたいと考えているところでございます。また、11月26日の衆議院予算委員会において、感染リスクが高い30代から50代の男性に対し、予防接種法の位置付けを含め、対策を検討するとの見解が示されました。過去に風疹が流行した際に

は、公衆衛生の観点から、千葉県を初め、さらに広域での対応が一斉に講じられたことが、流行の終息に有効であったため、今後も、国・県の方針を踏まえながら、対応してまいります。

次に、中項目2、検診の充実についてのうち、まず、口腔がん検診についてお答えいたします。

本市では、平成28年度から年1回、150人定員で口腔がん検診を実施し、平成30年度は132名の申し込みがあり、125名が受診、受診率は約95%でございました。診査内容は視触診で、1次診査は、君津木更津歯科医師会の歯科医師が、2次診査は、千葉大学医学部附属病院または君津中央病院の歯科医師が担当するダブルチェック方式でございます。検診時における前がん病変を含めた病変発見率は、2%から4%であり、口腔がんが発見された方は、平成29年度に1名であります。口腔がん検診は、口腔がんを発見するというよりも、口の中にもがんはできること、口腔粘膜の自己チェックで病変の発見が可能であることを周知するための検診として、今後も継続して実施してまいります。

続いて、ピロリ菌検査について、お答えいたします。

がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針の一部改正により、死亡率減少を目的とした対策型検診の検診方法として、胃がん検診に新たに内視鏡検査が推奨されました。一方、ピロリ菌検査については、対策型がん検診としての有効性が認められていないことから、同指針には位置づけられておりません。また、平成29年10月に閣議決定された、第3期がん対策推進計画では、胃がんの罹患率が減少していること等を踏まえ、国は引き続き、ピロリ菌の除菌の胃がん発症予防の有効性等について、国内外の知見を収集し、科学的根拠に基づいた対策について検討するとされておりますので、今後も、国の動向を注視してまいります。

続いて、前立腺がん検診でございますが、本年10月には、前立腺がんの早期発見及び治療のために、PSA検診の実施について検討するよう、君津木更津医師会会長及び君津中央病院院長の連名で、要望書が提出されました。当地域は転移性前立腺がんが多いという、君津中央病院における前立腺がん診療の2年間の臨床データに基づく内容でございました。がんを初期の段階で発見し、適切な治療に結びつけられるよう、地域における前立腺がんの罹患状況や、医療機関の受け入れ態勢などを踏まえ、効果的な方法での実施体制を整えてまいりたいと考えております。

次に、中項目3、健康づくりの推進についてのうち、ボッチャ等誰でも楽しめるスポーツの推進について、お答えいたします。

本市スポーツ推進計画におきましては、ご質問にもございましたとおり、4つの基本目標を掲げております。そのうち、生涯スポーツの推進では、今後5年間に取り組む施策といたしまして、子どものスポーツ活動の推進、青年期・壮年期のスポーツの推進、高齢期・障がいのある人のスポーツ活動の推進、それぞれの実現に向け、各種事業を展開していくこととしております。また、世代や障がいの有無を超えた事業といたしましては、スポーツ推進委員と連携し、体験会や実技指導を通して、誰もが手軽に取り組むことができる、軽スポーツの普及に努めているところでございます。議員からご提案いただきました、ボッチャに関しましては、2016年のリオデジャネイロパラリンピックで、君津市在住の広瀬選手が日本初のメダル獲得、富津市でボッチャクラブが設立されるなど、ここ数年、近隣市での関心が高まっております。本市におきましても、先月25日に開催いたしました、木更津市オーガニックシティフェスティバル2018の際、ボッチャ体験教室や企業対抗戦が行われたところでございます。今後も障がいがあるなしにかかわらず、市民の誰もが、いつでも、

どこでも、いつまでも、それぞれのライフステージに応じて、スポーツに親しむきっかけづくりができるよう、スポーツ活動を推進し、生涯にわたってスポーツに親しむことができる、環境づくりに努めてまいりたいと考えているところでございます。

私からは以上でございます。

○副議長(重城正義君) ただいま、会議システムがちょっと不都合が生じているようでございますので、ご迷惑をおかけしております。次の答弁者、宮野福祉部長。

○福祉部長(宮野照久君) 私からは、大綱1、中項目3のうち、老人福祉センターの活用促進について、ご答弁申し上げます。

老人福祉センターは、老人福祉の増進を図ることを目的として、昭和50年に開館し、介護予防運動、健康相談、陶芸・パソコン教室などを通して、高齢者の方が、楽しく健康で生きがいのある人生を育む、憩いの場となっております。施設の利用状況は、平成29年度、年間利用者延べ3万7,211人のうち、約4割の1万6,048人の方がお風呂を利用されておりますが、議員ご指摘のとおり、利用者の多くは、固定した個人や団体となっているところでございます。また、施設利用に当たり、利便性を向上するために、バスによる送迎を行っておりますが、その状況は、月平均10日程度の利用となっており、施設同様に、固定した団体等が利用しているところでございます。このようなことから、より多くの高齢者の方に利用していただけますよう、ホームページ及び施設パンフレットの内容を充実させるなど、バスの利用方法についても周知を図ってまいります。また、今後のバスの利用状況を見ながら、必要に応じ、新たな送迎方法について、検討してまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○7番(渡辺厚子さん) それでは、再質問させていただきます。

初めに、高齢者肺炎球菌予防接種についてお尋ねします。

ご答弁で、国の方針が定まった後に判断するということなんですが、仮に定期接種が65歳のみとなった場合、あるいは現状の5歳刻みを継続する場合と、2通りが想定されると思います。市の任意接種助成についての方向性は、どのようなケースが考えられるのでしょうか。あと数ヶ月先のことなので、確認させてください。

○健康こども部長(鈴木賀津也君) まず、1つ目の想定といたしまして、定期接種を65歳のみとし、5歳刻み年齢の経過措置を終了する方針が示された場合は、75歳以上の未接種者を対象とする、本市の任意接種制度は、継続する予定でございます。2つ目の想定であります、現在の制度がそのまま継続された場合は、未接種者に対し、2度目の接種機会が設けられることとなりますので、本市の任意接種制度については、一定の周知期間を設けた上で、縮小していく方向で考えております。

以上でございます。

○7番(渡辺厚子さん) ほかの自治体では、過去に任意接種助成を行っていても、国の定期接種化が開始されたことによって、その独自の任意接種の助成をやめたところが、幾つもあります。そのような中で、本市が75歳以上で対象年齢以外の高齢者への接種助成を行ってきたということは、高く評価されるべきものと思いますし、今ご答弁いただきましたような、今後の方向性も妥当な判断だろうと思います。

次に、インフルエンザ予防接種についてお尋ねします。

ご答弁で、定期接種に位置づけられるなど、国として推奨されるものであることが必要だという、お考えを言われましたけれども、インフルエンザについては、ワクチンを接種しなくてもかからない人もいますし、接種してもかかってしまう人もいますので、効果が限定的だと言われることは理解いたします。ですが、任意接種は、定期接種にはならないまでも、一定の効果があつて、ニーズが高い場合に助成を実施しているものと認識しています。その意味では、せめて受験を控えた中学3年生のリスクや不安払拭のために、限定しての助成というのはできないものかと、私は思います。

そこで、仮にですけれども、中学3年生の接種に2,000円の補助を適用した場合、費用はどのくらいかかると想定されるか、試算をお聞かせください。

○健康子ども部長(鈴木賀津也君) 市内の中学3年生の生徒数は約1,200人でございますので、仮に全員接種したとして試算いたしますと、1人に2,000円の補助とした場合で、240万円が市の負担となる見込みでございます。

以上でございます。

○7番(渡辺厚子さん) 仮に中学3年生が全員2,000円の助成で接種したとすると、240万円かかると。希望しない生徒もいるとすれば、それ以下になるんですが、この240万円という額を高いと見るか否か、さまざまな考えがあるとは思いますが。ただ、入試前の時期にかかって、何日も学校を休んだり、ましてや受験当日に発症してしまえば、当事者にとっては、大変なこととなるわけです。実際にそうした残念な事例もあると聞いています。今回は、そのことを申し上げまして、市長や財政当局の賢明なご判断に委ねたいと思います。

次に、風疹予防接種についてお聞きします。

国がようやく、感染拡大を防ぐために、流行の中心となっている30代から50代の男性について、予防接種を原則無料で受けられるように、検討を始めたようなんですが、妊婦がかからないようにするためには、抗体の有無が不明で、将来的に妊娠を希望する女性が接種することが、大事なのではないかと思います。国の施策が実施されるまでの間、そうした女性に対する任意接種を、市で行うということではできませんでしょうか。

○健康子ども部長(鈴木賀津也君) 国では、風疹予防接種の対象に、30代から50代の男性を加えることについて、検討を始めたと報じられているところでございます。今後、国の動向を踏まえ、女性を接種の対象とすることも視野に入れながら、方向性を見きわめてまいりたいと存じます。

以上でございます。

○7番(渡辺厚子さん) 短期間で国の動向を見きわめなければいけない、そういった動向に合わせていかなければいけないというのは、市としても判断が難しいことと理解しております。

それでは、この風疹の流行に対して、市が特に周知したいと考えている点について、ここで改めて説明いただきたいと思っております。

○健康子ども部長(鈴木賀津也君) 風疹は、3日ばしかと言われ、重篤な症状は出ませんが、妊娠20週頃までの妊婦が風疹に感染した場合には、難聴、心疾患、白内障、精神発達遅滞、運動発達遅滞など、いわゆる先天性風疹症候群の児、お子様ですね、が生まれる可能性があります。対策といたしましては、予防接種により免疫を獲得することが有効ですので、妊娠を希望する女性

はもとより、抗体価が低いと言われる、30歳から50歳代の男性を含む、社会全体で取り組むことが肝要ではないかと考えているところでございます。

○7番(渡辺厚子さん) ただいま周知したいところを説明していただいたんですが、ここで、私が提示しました資料1をご覧いただきたいと思います。先ほど会議システムの不具合が言われておりましたが、写りませんか。

○副議長(重城正義君) 写る人と写らない人がいるようです。そのまま続けてください。渡辺議員。

○7番(渡辺厚子さん) わかりました。資料1につきましては、11月30日の公明新聞の記事なんです。この表を見ますと、風疹の予防接種の制度と年齢の関係がわかるようになっておりますので、自分がどこの位置にあるのかというのが、理解できるんじゃないかと思います。

また、資料の2の方をご覧いただけますでしょうか。

こちらは、11月17日の、やはり公明新聞の特集記事でございます。風疹流行がなぜ繰り返されるのかということについて、詳しく解説されていますので、ここでは読みませんが、後ほどゆっくり読んでいただけたらと思っております。世間でも騒がれておりますけれども、どういうふうにご注意したらいいのかなというのを理解するのにも、私もかなり長い時間をかけたんですが、この記事はすごくよくわかるのではないかと、提示させていただきました。

今後、国できちんと予算化されたとしても、対象となる人が接種を受けなければ、意味がありません。行政としては、国の対策事業が決まり次第、対象となる方々への周知徹底をお願いしたいと思います。また、抗体価が低いとされる年代の皆様におかれましては、過去に風疹、いわゆる3日ばしかですね、にかかった記憶がない方、またはっきりしない人は、抗体検査を受けて、結果によってはワクチンを接種する、あるいは仕事が忙しくて何度も病院には行けないのであれば、抗体検査を省いて、ワクチン接種をすることもできると思います。どうか、これから生まれてくる世の赤ちゃんのためにも、感染を広げないためにも、しっかりと対処をしていただきますことを念願しまして、次の質問に移ります。

中項目2、検診の充実のうち、口腔がん検診について伺います。

県内他市の状況を、県のホームページで検索いたしますと、本市以外では、7つの自治体で口腔がん検診を実施しているようです。その中でも、対象年齢を30歳以上とか40歳以上にしているところがありますが、本市の場合は、年齢制限を設けずに、無料で行っております。これはどういった理由なのか、お聞かせください。

○健康子ども部長(鈴木賀津也君) 君津地域内での口腔がん検診は、平成21年度から4年間、君津・木更津歯科医師会が実施主体となり、4市を巡回する形式で、対象者の年齢制限を設けず、自己負担もなしで、実施していたところでございます。この事業が一巡した後、歯科医師会から4市に、口腔がん検診事業を実施するよう、要望がございました。これを受けて、本市では、平成25年度から27年度までの3年間、国保いきいきフェスタで、自己負担金なし、対象年齢の制限もなしという、従前と同様に実施していたところでございます。平成28年度以降は、市の歯科事業といたしまして、従前と同様、自己負担なし、対象年齢の制限もなしということで、口腔がん検診普及の観点から、同じ方針で実施しているところでございます。

以上でございます。

○7番(渡辺厚子さん) わかりました。口腔がん検診については、他のがんに比べて、余り知られていないようです。私自身もまだ検診を受けたことがないのですが、少し調べてみますと、世界的に見ても、先進国の中で日本の口腔・咽頭がんの罹患率と死亡率は高く、認知度の低さがうかがえるとの指摘がありました。また、口腔がんは、以前は50代から60代の男性で、喫煙者や不摂生な生活を送る人に多いとされてきたそうなのですが、近年は、女性や若年層の発症が目立つことが懸念されているという、記事もありました。この意味では、口腔がん検診の普及が大事だということが、私も理解できました。

続きまして、ピロリ菌検査について伺います。

ご答弁で、対策型がん検診としての有効性は、認められていないというお話でございました。とはいっても、ピロリ菌の除菌は、胃がんのリスクを減らすためであり、胃がんを撲滅しようという運動の一環で広がっているものと認識しています。評価的な検診とはいえ、保菌状況を確認して、胃がん検診へという流れにつながると思っています。ご答弁では、国の動向を注視していくとのことでしたが、たとえば、ピロリ菌検査を受けて、保菌がわかっても、内視鏡検査を経なければ、除菌費用は保険適用になりません。そこで、本市の胃がん検診は現在、バリウム検査のみなのですが、内視鏡検査の導入については、どのようにお考えでしょうか。

○健康こども部長(鈴木賀津也君) 国の指針に胃内視鏡検査が推奨されることを受け、胃がん検診への導入について、4市で検討を開始いたしました。内視鏡検査は、医療機関で実施する個別検診となり、地域の医療機関の協力が必須となります。現在、君津地域における内視鏡検査設備の数、検査の所要時間や対応可能数などの医療資源の把握や、診療への影響など、課題の整理を行っているところでございます。今後、君津・木更津医師会のご意見を伺いながら、医療機関における内視鏡検査の検討を行っていく予定でございます。あわせて、ピロリ菌検査をどのように考えていくのかにつきましても、検討課題となっておりますので、医師会のご指導のもと、地域での体制づくりを行ってまいります。

以上でございます。

○7番(渡辺厚子さん) わかりました。内視鏡検査の導入について、検討が始まっているということは、市の胃がん検診が一步前進したと理解いたします。また、ピロリ菌検査については、保菌状況を確認した後に、胃がん検診へとつなげるプロセスとして、有効だと思っておりますので、引き続きご検討のほど、よろしくお願いいたします。

次に、前立腺がん検診について。

先ほどのご答弁では、効果的・効率的な方法での実施体制を整えたいという、お考えが示されました。それでは、どのような形で、いつ頃実施できる予定なのか、お知らせください。

○健康こども部長(鈴木賀津也君) 前立腺がん検診は、PSA値をはかりますので、泌尿器科医からは、検診の受けやすさを考慮すると、血液検査の項目に追加することが適当であるとのこと意見をいただいております。このため、国民健康保険の特定健診と同時実施できるよう、検討を進めているところでございます。現在、対象者や実施方法など、細部を君津・木更津医師会と協議中でございますので、可能な限り、スケジュールを調整し、平成31年度から導入したいと考えているところでございます。

以上でございます。

○7番(渡辺厚子さん) 前立腺がん検診については、導入に向けた準備が着実に進められていることを、うれしく思っております。これまでさまざまな方面でご尽力くださった先生方にも、感謝したいと思っております。本市では、長い間検査実施の空白期間がありました。これで男性特有のがん対策が、大きく進展していくことを期待しております。

次に、健康づくりの推進について。

初めに、ポッチャ等誰でも楽しめるスポーツの推進について伺います。

スポーツ推進委員と連携して、体験会や実技指導を通して、軽スポーツの普及に努めるというご答弁がございました。軽スポーツの普及とは、どのような取り組みをされてきたのか、お聞かせください。

○健康こども部長(鈴木賀津也君) スポーツ推進委員との連携による、軽スポーツの普及についてでございますが、現在は、グラウンドゴルフの実技指導を行っているところでございます。また、君津地区スポーツ推進委員連絡協議会や千葉県スポーツ推進委員連合会主催により、講習会・研修会等に、本市スポーツ推進委員が参加し、軽スポーツの普及のための知識、実技の習得に努めているところでございます。

以上でございます。

○7番(渡辺厚子さん) スポーツ推進委員の方々は、春とか秋の歩け歩け大会など、あとまた元旦マラソンなども携わってくれているというふうに思っておりますが、そのほかにも、レクリエーション協会というのが、生涯学習フェスティバルだとか、こどもまつりなどで、活動されているように記憶しております。このレクリエーション協会の役割や活動状況については、どうなんでしょうか。

○健康こども部長(鈴木賀津也君) レクリエーション協会の役割及び活動状況についてでございますが、当協会は、レクリエーション活動の普及・振興、市民の健康増進と余暇生活の向上、地域の活性化に寄与することを目的に設立され、地域で行う事業への積極的な支援や、企画提供などを行っている団体でございます。主な活動状況といたしましては、議員おっしゃるとおり、生涯学習フェスティバルやこどもまつりのほか、各公民館が実施する事業にも、参画しているところでございます。

以上でございます。

○7番(渡辺厚子さん) 健康づくりとしてのスポーツの普及には、今おっしゃっていただきましたスポーツ推進委員やレクリエーション協会など、スポーツに関連する各種団体が連携・協力して、取り組んでいくことで、より一層広がっていくと思いますが、そうした連携についてはどうお考えですか。

○健康こども部長(鈴木賀津也君) 広くスポーツを普及させていくためには、議員おっしゃるとおり、スポーツ推進委員、レクリエーション協会等、スポーツにかかわる関係団体相互の連携・協力が、必要不可欠と考えているところでございます。市といたしましては、今後、各種団体が相互連携を図ることができるよう、その体制づくりに努めなければならないと考えているところでございます。

以上でございます。

○7番(渡辺厚子さん) 関係団体との連携ということを伺いましたが、また一方で、11月25日に行われました、オーガニックシティフェスティバル 2018 では、ポッチャ体験教室、企業対抗戦、これは

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社千葉南支店の主催によるものであったと思います。スポーツの普及に当たり、民間企業との連携については、どうでしょうか。

○健康こども部長(鈴木賀津也君) スポーツの普及には、スポーツ関係団体のみならず、スポーツ振興にご理解いただける民間企業との連携も、必要であると考えているところでございます。

以上でございます。

○7番(渡辺厚子さん) それでは、ちょっと視点を変えまして、ボッチャなどの、世代や障がいの有無を超えて誰でも楽しめるスポーツを通して、健康づくりを進めていく上では、身近な地域でできることが望ましいと考えます。その意味では、総合型地域スポーツクラブの拡大に期待したいところではありますが、その点はいかがお考えでしょうか。

○健康こども部長(鈴木賀津也君) 総合型地域スポーツクラブにつきましては、子どもから高齢者まで、また、障がいのあるなしにかかわらず、さまざまなスポーツを愛好する方が参加できる、地域住民の自主運営による、総合的なスポーツクラブでございます。現在、本市には、かねだファミリースポーツ倶楽部、富来田フレンドスポーツ倶楽部、真舟・請西スポーツクラブの3つのクラブがございしますが、地域スポーツの担い手として、大きな役割を果たしていることから、各地域への拡大を今後、努めてまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○7番(渡辺厚子さん) 現在は、今ご紹介いただいた3つのクラブがあるということですが、今後、この総合型地域スポーツクラブの拡大について、どのように進めていく予定でしょうか。

○健康こども部長(鈴木賀津也君) 総合型地域スポーツクラブの拡大に当たりましては、地域を主体としたものであることから、まちづくり協議会や自治会へ、スポーツクラブに関する情報提供を初め、結成への助言、その後の活動支援などに努めてまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○7番(渡辺厚子さん) わかりました。これからの考えを伺ったところなんですけど、実際、地域で継続的に何か取り組もうとなると、場所や運営する人の確保が必要になってきますので、簡単なことではないというのは認識しております。新たな取り組みをするのは、容易ではないかもしれないんですが、今回提案しましたボッチャについて言いますと、11月4日の中央公民館まつりや、先ほども紹介したように、25日のオーガニックシティフェスティバルでも体験会がありましたし、私が体験したのは、11月10日に福社会館で行われたイベントです。それと、24日にも、社会福祉協議会の福祉まつりで、体験コーナーがございました。この秋、本当に市内でボッチャの体験の機会がたくさんあったと感じています。このように、本市において、ボッチャの機運が高まりつつあることを感じているのは、私だけではないと思います。2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、ボッチャなどのパラスポーツを通して、世代や障がいのあるなしを超えた、健康づくりを推進していけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

次に、老人福祉センターの活用促進についてお聞きします。

まず、お風呂についてなんですけれども、平成29年度の利用が1万6,048人ということでした。1日5時間、利用時間があるわけなんですけれども、もっと利用者がいても大丈夫なのかな、どうかなと思うんですが、今の入浴施設では、一度に何人ぐらいまでなら入ることができるのでしょうか。

○福祉部長(宮野照久君) 一度に10名程度の利用が可能でございます。

○7番(渡辺厚子さん) 利用できる範囲というか、対象について、ホームページで調べてみますと、1、60歳以上、2、老人クラブ、3、付添人、4、その他市長が適当と認めたものとなっているんですが、60歳以上の方が子や孫と一緒に利用するというのもできますか。

○福祉部長(宮野照久君) ご利用いただくことは可能でございますが、年齢、地域によっては、施設料が必要となる場合がございます。

○7番(渡辺厚子さん) 施設の使用料については、そう高くないと、パンフ等を見て思っております。お風呂の利用者が増えても大丈夫なのであれば、もっと多くの人に施設のことを知ってもらうといいなと思っておりますが、老人福祉センターのパンフレットは、現在どこに置いてありますか。

○福祉部長(宮野照久君) 現在、老人福祉センターと市民総合福祉会館、及び朝日庁舎の3ヶ所に、施設パンフレットを設置しております。今後は、より多くの方に施設を知っていただけるよう、公民館等に設置し、周知を図ってまいります。

○7番(渡辺厚子さん) 知っていただかなければ始まらない話なので、ぜひともその辺の工夫は進めていただきたいと思っております。

次に、送迎バスについてお聞きしたいんですが、市のホームページで、老人福祉センターのことを見ましても、送迎バスがあるということは載っていません。例規集から引っ張って検索することで、利用条件が見られました。改めて、送迎バスの利用方法について、ご説明ください。

○福祉部長(宮野照久君) 送迎バスにつきましては、同一地域において、60歳以上の方が10人以上集まっている場合、あるいは、老人クラブや老人福祉に関する事業を行う団体が、施設を使用する場合は、利用が可能でございます。利用に当たりましては、老人福祉センター使用許可申請書に、バスの送迎を受けたい旨を記載し、施設を使用する7日前までに、老人福祉センターに提出していただくこととなっております。

○7番(渡辺厚子さん) それでは、送迎の仕方なんですが、例えば、町内会など、1つの団体で複数のポイントを回って、送り迎えというのですか、送迎をしてもらうことはできませんでしょうか。

○福祉部長(宮野照久君) 現在も、同一地域であれば、複数の箇所を回っております。

○7番(渡辺厚子さん) 現在もやっているということで、最初のご答弁で、バスの送迎は月平均10日程度の利用というふうにあったんですが、もっと申請があった場合でも、バスの送迎の対応は可能でしょうか。

○福祉部長(宮野照久君) バスの稼働状況からいたしますと、可能であると考えます。ただし、24人乗り中型バス1台で対応しておりますことから、場合によっては、日時の調整が必要となることもございます。

○7番(渡辺厚子さん) お風呂の利用やバスの送迎について、何点か確認してまいりました。もっと多くの方が利用できる状況がわかりました。そこで、施設のさらなる利用拡大を図るためにも、ちょっと角度は違うんですが、私個人は、この施設の老人という名称を、変えた方がいいのではないかと考えております。國吉議員が庭球場のお話をされておりましたけれども、私は、この老人という言葉がなくてもいいのではないかなと、かねてから思っていたのですが、名称を変更するということとはできるのでしょうか。

○福祉部長(宮野照久君) 施設の名称を変更する必要性と、木更津市老人福祉センターの設置及び管理に関する条例の改正が前提とはなりますが、名称を変更することは可能でございます。

○7番(渡辺厚子さん) 必要性がどういうふうに判断されるのかというのは、ちょっと今わからないんですが、先ほども言いましたように、私個人としては、老人というワードを何が何でも入れないといけないというのは、ないのかなと思っています。実際に、60代の方はまだまだお若いですし、老人という言葉が私にはしっくりきません。とはいいましても、今の名前が定着してしまっていて、長年利用してきた人にとっては、わざわざ変えなくたっていいよねという考えもあるかもしれません。いずれにしても、私は、これまで利用したことのない人にも利用してもらうために、提案しております。利用者の皆様のご意見も伺いながら、例えば、愛称として、親しみやすい名前をつけるのも、よいかもしれません。この機会にぜひご一考をいただけたらと思っております。

以上で、本日の私の質問を終わります。ありがとうございました。